

高校総体躍動する部活動生

宮崎学園新聞

2025年
第七号宮崎学園
高等学校
新聞部

陸上部 直前の大会の悔しさをバネに躍進



陸上競技部は、五月二十四日から五月二十七日にかけて開催された県高校総体において、五つの競技種目で入賞を果たした。しかし、その約一か月前の四月に参加した県陸上競技記録会と県高校ジュニア陸上競技選手権大会は、実力を十分に発揮することができず、選手たちにとって課題の残るものとなっていた。部員たちはその苦い経験を糧に成長を遂げ、結果的に高校総体で雪辱を果たすことが出来たのだ。

高校総体後のインタビューで部員の相馬由奈さん（3K）は、「今回は例年に比べてコンディションをうまく合わせられない人が多く、不安な四日間だった。



賞状を手にする女子サッカー部（左）と女子ハンドボール部（右）

ハンドボール 県大会制す

五月二十五日、第五十二回宮崎県高等学校総合体育大会において、本校女子ハンドボール部が五大会連続十八度目の優勝を果たし、インターハイへの出場が決まった。

シード権を獲得していた宮崎学園は二回戦、宮崎西高校

に57対11で圧勝。続く準決勝では、都城泉ヶ丘高校との一戦に37対21と危なげなく勝利し、決勝へ駒を進めた。

決勝戦の相手は小林秀峰高校。宮崎学園は昨年度の新人大会で同校に敗れ、優勝を逃

だが、みんなの応援と協力もあり、多くの種目で入賞することができて良かった。」と語っていた。そのような三年生の姿を見て「先輩方と一緒に大会に出場できて、良い体験になった。」と話す後輩たちの姿もあった。

また、七月十五日には一年生大会が行われた。大会に参加した工藤太我さん（1L）

- 高校総体結果
- 【男子400mハードル】7位・日高聖壘（2D）
 - 【女子400m】6位・生田りこ（3B）
 - 8位・相馬由奈（3K）
 - 【女子4×100mリレー】5位・相馬由奈（3K）
 - 齊藤文愛（3C）
 - 生田りこ（3B）
 - 成田夕海（2A）
 - 【女子4×400mリレー】5位・生田りこ（3B）
 - 相馬由奈（3K）
 - 五十嵐優花（3C）
 - 齊藤文愛（3C）
 - 【走り高跳び】6位・成田夕海（2A）
 - 一年生大会結果
 - 【4×100mリレー】4位・工藤太我（1L）
 - 平井友真（1J）
 - 野中翼（1C）
 - 水野賢音（1B）

していた。リベンジをかけた臨んだ試合は、宮崎学園のリードで進み、31対30で僅差を守り切って勝利。見事栄冠を手にした。

今大会の優勝により、八月に岡山県で開かれるインターハイへ出場することが決まった。県勢初の全国制覇に向けて、期待が高まる。（伊東）